

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101744		
法人名	アサヒ電器株式会社		
事業所名	グループホーム陽だまりの里		
所在地	030-0943 青森県青森市幸畑阿部野163-331		
自己評価作成日	平成30年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成30年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「楽しく、その人らしく、安心・安全・健康、生活の継続」の理念の下、スタッフ全員が学習療法実践士となり、希望があれば、公文の学習療法を行い、認知症の悪化防止、コミュニケーションの向上に役立っています。また、リハ活動の一環として、季節に合わせた壁面工作をスタッフを中心として、入居者様に手伝ってもらい製作しています。毎年行っている夏祭りでは、ご家族を含め皆さんに楽しんで頂けるように工夫を凝らした出し物や、料理を提供し盛り上げて、身近な所から季節を感じていただけるようにしています。また、旬の野菜をご近所の農家さんに入居者様と一緒に買いに行き、積極的にご近所づきあいができるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ケア理念の基、入居者一人ひとりの状態に合わせたケアを実践している。地域密着型サービスとしての役割をスタッフ全員が把握し、地域との馴染みの関係を築くことで入居者のケアの向上に繋げている。また、家族や友人も訪問しやすいような関係性の構築や雰囲気づくりをしている。面会者が多いことで入居者の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域でのグループホームとしての役割を考え、話し合い、開設当初の理念を継続し、常に念頭に入れ介護の実践のよりどころとしている。	「楽しく、その人らしく、安心・安全・健康、生活の継続」という理念の基、地域でのグループホームの役割は何かを話し合いケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初から、町内会に入会し、年に2回の総会や、年間行事に参加している。ホームの夏祭りに参加してもらい、女性会の方々には、誕生日会等にボランティアで参加頂き踊りを披露してもらっている。	町内会に入会し、町内会の総会やお祭りなどに参加されている。その他、近所の農家から野菜などの差し入れがあったり良い関係が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや誕生会に踊りを披露してもらったり一緒に食事をする事により、認知症について理解を深めてもらい、また、相談なども受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、近況報告を行い、町内会の会長、婦人会の会長などからの意見や、家族の想いを聞き、介護に活かしている。	運営推進会議を2か月に1度開催されている。出席者は地域の婦人会、町内会代表、家族代表、地域包括支援センター職員で構成し、各専門職や地元の協力者と意見交換をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の結果や、利用者状況を報告し連絡を取っている。また、生活保護のことで分からない事があればその都度相談している。	市町村担当者へは運営推進会議の場で、地域包括支援センターの職員を介して連絡し、報告を密にしている。また、分からない事があればその都度相談するよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日常的に施錠せずに、家族の方や近所の方がいつでも訪問できるように玄関を開けている。全スタッフが身体拘束について勉強し、拘束しないケアに取り組んでいる。	身体的拘束適正化委員会を立ち上げ、身体拘束について指針をまとめており、様々な事例をもとに検討し気づきを得る機会としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修会に参加し、皆で何が虐待になるのかを考えたり、スタッフ間で意見交換して、常に虐待防止の意識を高く持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいるので、実際に後見人と話す機会、その場面を見る機会があり、理解を深め、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始の契約の際には、利用者家族様や本人の不安や希望・意見を聞きながら、時間をかけ説明を行い理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族意見箱を設置している。また面会に来たときには、状況や希望などを話せる、関係作りを行なっている。	家族の来訪時や運営推進会議の際に、積極的にコミュニケーションを図り意見や要望があれば聞き出している。その他意見箱の設置もある。意見はスタッフ間で協議しケアの実践に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフが意見や提案等を出しやすいように、スタッフと積極的にコミュニケーションをとり、話しやすい関係を保つように心がけている。	スタッフの意見はスタッフが全員参加する全体会議で検討する機会があり、その中で必要なものは経営層に上申し、反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はスタッフの良い所を認め、苦手なところを克服できるよう相談に乗れるよう心掛けている。また、勤務状況など困っている事がないかも聞けるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者はスタッフのそれぞれの能力にあった研修などに参加出来るよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との親睦会への参加させたり、意見交換を行う事で親睦を深めてもらいサービス向上いさせるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は話しやすい関係を築けるよう、小さな事にも耳を傾け親身になって話が聞けるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始の際には、家族から本人の現状や不安に思っている事を詳しく聞き、家族から信頼してもらえるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの情報をスタッフ間で共有し、何を一番に支援していくのかを話し合い、分析した上で適切なケアが出来るように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活を一緒にしている、という事を大事にし、入居者様の事を親身になって考え、助け合い過ごすことで信頼関係が深まるように心がけせいかつしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には毎月のお便りにて、ホームでの状況を知らせしている。家族と一緒に病院受診をしたり、ドライブやランチに出かけたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前より利用している美容院へ出かけた時、遠方の方からの贈り物があった時には、電話や手紙でお礼が出来るように支援している。	以前からの馴染みの関係の継続に加え、散歩時に近所の農家さんと親しくなる等、入居後に於いても地域の住民とも馴染みの関係が築けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の普段の様子や会話から関係性を見極め、馴染みの関係が作りやすいように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて、家族の相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ち、希望、想いを重視した上で検討し、スタッフ間で共有して統一した介護に取り組んでいる。	センター方式を活用し、入居者個々の思いや意向の把握に努めている。思いや意向は介護計画に反映されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や、大切にしてきたことなどを聞き取り、把握して介護やに生かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日生活を共にすることで、利用者様それぞれの生活のペース心身の状況出来る事出来ない事を把握し、記録し、スタッフ間で共有するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族や必要な関係者からの意見や申し送り等の記録を基に現状を把握し、話し合いで出た意見やアイデアを反映させた介護計画を作成するように心がけている。	家族の来訪時に意向を確認したうえで専門職が協議し介護計画を作成されている。日々の様子は介護記録書へ細かに記録し、ケアの向上に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活や心身の状況をよく観察し、どのように支援したか、結果どうだったのかを記録、スタッフ間で共有し計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良や症状の変化により、家族の方に相談しながら専門医への受診等行ったり、柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園や女性会には誕生会などに参加頂き踊りを披露してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人一人のかかりつけ医の受診に付き添い医師に状態報告・説明しながら、必要に応じた病院を紹介してもらい、家族と相談しながら入院や治療を行ない、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望によりかかりつけ医に受診できるよう通院介助等の支援をされている。かかりつけ医に受診できることで本人、家族の安心に繋げている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細かな身体状況・精神状態などを観察し、ホーム内の看護師に状態報告を行い、家族と相談しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、訪問し、本人や家族を励まし、早期離床回復し、退院できるように病院関係者と情報交換を行っている。退院後の生活も安心して過ごせるように相談や連絡をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは、早い段階で認知症の重度化、終末期の過ごし方について、ホームでの出来る方法について説明しながら話し合い、決まった方針を共有し、医療関係と連携し支援している。	グループホーム内で看取りケアを実践されている。身体状況の経過を見ながら状態に合わせて家族との相談を進めており、看取りケアに必要な医療機関との連携体制も整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは、普段との違いにいち早く気付けるように日々の変化を観察し共有している。起こりうる急変に備えての対応を勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消火・避難・災害時の訓練や災害時の訓練をしており、消防署の方や消防安全センターの方に訓練を見てアドバイスして7頂いている。運営推進会議等でも意見を求め参考にしている。	年2回の防災訓練には家族の方にも参加して頂き安全性を確認してもらっている。訓練は様々な場面での緊急事態を想定し実施している。消防署が近くにあり有事の際は素早く駆けつけてもらえる立地である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格尊重し、プライバシーを損ねないよう気を付け、思いやりのある介護が出来るようにスタッフ間でも注意しあっている。	話しかける口調に気を付けながら、入居者個々の人格を尊重した声掛けを実践している。トイレの際は本人の自尊心を損なわないようにさりげない見守りをするなど配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの思いや希望を話しやすいような関係性が保てるように心がけて接している。又、自己決定が出来るように誘導的な質問をしないようにして働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを大切にた介護が出来るように、一人一人に合わせた時間の取り方を工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	状況にあった身なりが出来るように、本人と一緒に考えたり、好みを生かしたアドバイスをしたりして、楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話でそれぞれの食の好みを聞き、献立に反映させている。又、旬の食材を使い季節を感じてもらえるようにしている。一緒に楽しみながら、準備や後片付けを行っている。	その日の献立をスタッフが一緒に頂くことで、美味しさの共感や食材等から季節を感じてもらえるような声掛けなど、食事を楽しくできるよう実践されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った摂取量や好みを把握して食事を提供している。水分補給も十分に摂れるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の口腔状態や能力に合わせ、声かけ・見守りや介助を行い、清潔が保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄チェック表を付けて排泄パターンを把握し、トイレで排泄が出来るように声を掛けたり誘導をして、オムツにを使用しないように支援している。	落ち着きがなくなるなど、行動の変化がある場合は排泄のサインであることを把握し、個々に合わせた排泄介助、誘導のタイミングを取っている。なるべくトイレで排泄が出来るよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が認知症に悪影響があることを認識し、献立に野菜を多く取り入れたり、水分不足にならないように気を付けたり、運動不足にならないよう体操を行い予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴は月曜と金曜と決まってはいるが、本人の体調や希望により、いつでも入浴できるようにしている。	本人の希望によりいつでも入浴できるように体制を整えている。看取りで体力が低下した方も本人、家族の希望があれば入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの体調や体力・生活習慣を考慮して就寝して頂いている。落ち着き安心して眠れるような雰囲気づくりに気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に正しく服薬できていることを確認し、薬の副作用や用法・用量を理解できるよう、それぞれの服用している薬の一覧を見やすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日生き生きと張りのある日々が過ごせるように、出来ることを手伝ってもらう事で役割を感じてもらい、趣味を生かしての作品作りを行ってもらったりして楽しんでもらえるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴をしたり、散歩したり、花見や紅葉狩り、天気の良い日には外に出てご飯を食べたり、散歩に出かけたり、地域の祭りなどに出かけたりと、外出する機会を設けるようにしている。	週に1回買い物へ出かけたり、家族と一緒に外食に出かけたりすることを計画に盛り込み、支援をしている。地域の夏祭り、イベントにも希望に合わせて外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、自己管理の出来る方には少額でもお金を所持し管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もおり、家族からの電話にいつでも出れるように支援している。知人からの贈り物には、お礼の電話が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、不快にならないように、空調や明るさに気を付け、音によって不穏にならないように気を配っている。又、季節を感じられるような植物を飾ったりしている。	落ち着いた雰囲気、入居者がゆっくりと過ごせるように配慮されている。廊下にはとこるところ歩行中に休めるよう椅子が配置されており、入居者の休憩や自立支援に繋げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外が眺められるところにベンチを置いて、一人でも、馴染みの方同士でも過ごせるようにしている。玄関エントランスでも過ごせるように、椅子を置いたり、危険がないか見守れるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、使い慣れたものを持ってきてもらい、安全かつ居心地よく暮らせるように工夫している。	使い慣れた家具を持ち込んでもらえるよう本人、家族へ働きかけ、安心した生活ができるように支援している。その他、本人の希望により家族と連絡が取れる携帯電話を持参してもらうなど、閉鎖的な環境にならないよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のないバリアフリーの造りで、トイレ・廊下・浴室には手すりを設置し、安全に散歩や移動が出来、自立した生活が送れるように工夫している。		